

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：74331
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2018～2021
 課題番号：18H00941
 研究課題名(和文) マイノリティの包摂/排除をめぐる生政治：部落改善・融和政策の歴史社会学的研究

研究課題名(英文) Bio-politics in inclusion/exclusion of minorities : Historical sociology on Buraku improvement and reconciliation policy

研究代表者
 野口 道彦 (Noguchi, Michihiko)

公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員

研究者番号：00116170

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀初頭に開始される部落改善・融和政策について、その形成に深く関わった留岡幸助の日記を解析することにより、その性格について歴史社会学的に考察した。具体的には、北海道家庭学校が保管している留岡幸助日記(全321冊)を解析して各簿冊の目次作成と概要把握を進め、全体の約四分の三の作業を終えた。またその解析作業に伴い、同志社大学人文科学研究所が作製したマイクロフィルム版の留岡幸助日記、および北海道家庭学校所蔵の留岡幸助日記浄書原稿をデジタルデータ化した。これらは共同研究の終了後、受入機関である世界人権問題研究センターにて研究利用にむけて整備することとなっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまであまり利用されてこなかった留岡幸助日記を解析し、明治時代の末に政府による被差別部落に対する改善事業が開始されるに至る時代背景や、留岡が欧米に遊学し吸収した当時の先端的な医療、教育、社会事業の影響について考察した。これにより、従来反動的側面が強調されてきた部落問題政策の近代的側面に光を当てるとともに、同時に当該政策が有していた被救助者に対するパターナリスティックで抑圧的性格についても近代性との相関のもとに捕捉する分析視角を獲得した。また今後の研究課題として当該期の多様な社会事業とグローバルに展開する統治の技術との連関についても検討が必要と認識するに至った。

研究成果の概要(英文)：In this study, we examined Buraku improvement and reconciliation policies in the early 20th century by analyzing the diary of Kosuke Tomeoka. Specifically, we have completed the analysis of about three-fourths of Tomeoka Kosuke's diary (321 volumes in total) kept by Hokkaido Home School. Along with the analysis work, the following accompanying results were produced. Digital data of Tomeoka's diary on microfilm produced by Doshisha University's Research Institute for Humanities and the engraving manuscript owned by Hokkaido Home School. After the joint research is completed, these will be made available for research use at the Global Human Rights Research Center.

研究分野：社会学

キーワード：部落問題 マイノリティ 生政治 優生学 慈善事業 人口 留岡幸助 社会改良

1. 研究開始当初の背景

1965年の同和対策審議会答申を受け、戦後日本では部落問題解決を目的とする同和対策事業が実施された。同事業は2002年に終結したが、その後も部落差別事象は後を絶たず、インターネット上や各地のコミュニティにおいて現代的な装いを施しながら存在し続けている。こうした実態をふまえ、2016年12月、「部落差別解消推進法案」が成立した。同法案の中で、政府は現在も部落差別が存在することを認め、実態調査と社会啓発を推進し、その解消に務めることを定めた。しかし、同法案は肝心の部落差別を定義することを回避しており、部落問題の現代的性格を捉えることが極めて困難な作業となっていることが伺える。

これまで部落差別は日本社会の後進性の産物とみなされ、西洋近代を範とする市民社会の形成を阻む要因とされてきた。こうした「封建遺制論」の基本枠組を提供したのが、かつて井上清が唱えた「三位一体論」(身分・地域・職業という三つの属性によって被差別部落が規定される、とする論)である。だが今日の被差別部落(民)の現実、このような本質論的認識枠組みでは到底把握することができないまでに多様化・複雑化している。にもかかわらず、現在においても、部落問題の研究者や行政関係者、さらには多くの当事者運動の間で、「封建遺制論」部落本質論が蔓延している状況にある。だが、身分解放令が出されてから約150年が経過する今日においても、差別が現に存在することを鑑みれば、従来の解釈枠組がもはや現実を合理的に説明しえないことは明らかであろう。明治以後の日本において社会的差別を生み出してきたメカニズムとは何か。これを解明することは、優れて今日的課題である。

2. 研究の目的

そこで我々は、部落問題に生政治・統治性という観点から光を当て、近現代における社会的差別を論じる従来のパラダイムの転換をはかることを目的に本共同研究を開始した。

19世紀末から20世紀前半、欧米列強諸国で展開された帝国主義競争をつうじて、世界中の知識人の重大な関心事となったのが、「人種の優劣」であった。M・マゾワーによれば、社会福祉をつうじて国民生活の向上や人種改良に乗り出した当該期の欧米諸国では、マイノリティに対する抑圧の強化がもたらされた。あらたに浮上してきた「人種の退化」という問題に対し、ナチス・ドイツは突出した政策化による解決を目論み、精神病患者や知的障害者などの社会的少数者、ユダヤ人の大量虐殺という悲劇を引き起こした(『暗黒の大陸』2015年)。20世紀の西洋史を俯瞰し、社会福祉と人種差別が連動していたことを指摘するマゾワーの視角は、近代世界の社会編成原理と社会的差別を考察する上で極めて示唆的である。

産業社会の形成期にあった同時期の日本でも、西洋世界と共時的な社会変容を確認しうる。地方改良運動や感化救済事業を主導した内務官僚や社会事業家たちは、欧米と比肩しうる国民を育成するため、衛生や栄養の状態、心身の健康で健全な発育、といった近代的な価値規範の普及を推し進めた。こうした社会改良政策の一環として開始された部落改善事業は、いかに被差別民を社会に包摂し、排除することになったのか。この解明を目指した。

3. 研究の方法

20世紀初頭に開始される部落改善(後の融和政策)の形成に中心的に関わった留岡幸助の日記(全321冊)が北海道家庭学校に保存されており、これを利用して部落改善・融和政策の性格について考察することにした。具体的には毎月1回の研究例会を開催し、担当を割り振って各人が日記1冊の目次と記事内容の概略を記入したワークシートを作成し、分担報告する形式の研究例会を開催した。

解析作業においては、同志社大学人文科学研究所が作製したマイクロフィルム版の留岡日記をデジタルデータ化して利用した。また参考資料として、北海道家庭学校で保存されている留岡幸助日記の浄書原稿をデジタル撮影した。両資料の利活用については、北海道家庭学校および同志社大学人文科学研究所の許可を得てメンバー間で共有し、毎回の研究会での分担発表を効率的に進めることが可能となった。これらは研究会終了後、受入機関である世界人権問題研究センターにて研究利用にむけて整備することとなっている。

4. 研究成果

上述の方法に沿って共同研究を進め、1年間の延長期間も含め5年間に52回の研究例会を開催した。この間、全体の約4分の3に当たる日記の解析を終えた。それに基づき、明治時代の末に政府による被差別部落に対する改善事業が開始されるに至る時代背景や、留岡が欧米に遊学し吸収した当時の先端的な医療、教育、思想の影響について考察した。その結果、以下の知見が得られた。

従来、保守反動的、後進的側面が強調されてきた当該期の部落改善など社会事業政策について

は、同時代の西洋の科学的知見にもとづく人間理解や学校、病院、監獄などの社会施設のしくみや統治技法がふんだんに摂取・利用されており、その近代性に光を当てることができた。当時、西洋社会では伝統的なキリスト教のヒューマニズムに加え、ダーウィンの生物進化論やスペンサーの社会進化論、犯罪学や精神医学などの新しい学知が広く社会に普及したことがこれまでに指摘されてきた。留岡が日記に記した欧米遊学中の視察内容や、それを踏まえて日本で普及させようとした社会事業にもその影響は顕著であったことが窺われる。また部落問題政策が有していた被救助者に対するパターンリスティックで抑圧的性格については、その近代性と表裏の関係として捕捉することが必要と認識するに至った。これらについては、今後残りの留岡幸助日記の解析完了の後、論文集として研究成果をとりまとめる予定である。

さらに今後の研究課題として、近代以後にグローバルに普及していった多様な社会事業の性格については、それを可能とした人間統治の知識や技術との連関とともに把握する必要があると思われ、こうしたあらたなテーマについても引き続き研究を重ねてゆきたいと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 田中和男	4. 巻 40
2. 論文標題 朝治武・黒川みどり・内田龍史編『非部落民の部落問題』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佐賀部落解放研究所紀要：部落史研究	6. 最初と最後の頁 105-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 71
2. 論文標題 『人道』（家庭学校）復刊103号、1941年12月15日	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 85-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口道彦	4. 巻 26
2. 論文標題 留岡幸助、浴場と部落問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究紀要	6. 最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 105号
2. 論文標題 留岡幸助日記をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 グローブ	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 1015
2. 論文標題 人口に対する統治と「包摂/排除」をめぐる政治：日本近代の社会問題とマイノリティー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 97-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井岡康時	4. 巻 6
2. 論文標題 二〇世紀前半期の部落差別撤廃運動と行政における部落呼称と社会意識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落史研究	6. 最初と最後の頁 52-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井岡康時	4. 巻 39
2. 論文標題 一八八六年のロックダウン：大和国十市郡北八木村におけるコレラ感染をめぐる覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 50-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小林 丈広	4. 巻 8
2. 論文標題 近代都市と「衛生自治」：「貧民部落」をめぐる（小特集 疫病と都市）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野亮	4. 巻 26
2. 論文標題 長野県における 社会的なもの としての社会課設置をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央大学社会科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 59-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野口道彦	4. 巻 26
2. 論文標題 留岡幸助、浴場と部落問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究紀要	6. 最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井岡康時	4. 巻 38
2. 論文標題 そして村になる : 大和国添下郡六条新村の形成と展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 8
2. 論文標題 近代都市と「衛生自治」 : 「貧民部落」をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本弘幸	4. 巻 692
2. 論文標題 近現代史部会「生存」と「福祉」のはざま：福祉資源の受益者からの再構成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 40-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣岡浄進	4. 巻 214
2. 論文標題 都市の再開発と同和地区のジェントリフィケーション政策：新自由主義と部落差別解消推進法情況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 39-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本崇記	4. 巻 802
2. 論文標題 コロナ禍における差別論の更新	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 135-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林丈広	4. 巻 1号
2. 論文標題 地域史と障害者研究と	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害史研究	6. 最初と最後の頁 61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 手島一雄	4. 巻 798
2. 論文標題 本の紹介 黒川みどり・山田智『評伝 竹内好：その思想と生涯』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 60-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中和男	4. 巻 37号
2. 論文標題 （紹介）黒川みどり・山田智『評伝・竹内好ーその思想と生涯』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐賀部落解放研究所紀要	6. 最初と最後の頁 127-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 114
2. 論文標題 統治テクノロジーのグローバルな展開と「人種化」の連鎖：日本近代の部落問題の成立をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 73-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 28
2. 論文標題 「人間は尊敬すべきものだ」という思想：ゴーリキー『どん底』の受容と全国水平社の創立	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 初期社会主義研究	6. 最初と最後の頁 104-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口道彦	4. 巻 97
2. 論文標題 留岡幸助日記の再検討から、包摂と排除を行う統治テクノロジーとしての部落改善・融和政策の意味を明らかにする	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 GLOVE	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口道彦	4. 巻 64
2. 論文標題 2018年湯浅町地域高齢者等福祉ニーズ調査で明らかになったこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山研究所通信	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本弘幸	4. 巻 274
2. 論文標題 書評・藤野裕子『都市と暴動の民衆史』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野田一幸, 廣岡浄進, 吉村智博	4. 巻 770
2. 論文標題 座談会 絵図(古地図)所蔵機関における保存・展示・研究 (特集 絵図(古地図)をめぐる資料所蔵機関の課題)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 32-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣岡浄進	4. 巻 759
2. 論文標題 研究機関等による絵図・古地図のウェブ公開 (特集 情報化社会と部落史研究)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 関口寛
2. 発表標題 20世紀初頭のアカデミズムと統治の眼差し 鳥居龍蔵と喜田貞吉の被差別部落民研究から
3. 学会等名 「東京学派」ワークショップ 包摂と排除：東京（帝国）大学の近代学知、東京大学東洋文化研究所（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 関口寛
2. 発表標題 在米日本人社会と被差別部落民 The Japanese Community in America and Burakumin
3. 学会等名 The First International Workshop: International Dialogue on Migration Studies、日本移民学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 箱訴：明治の目安箱
3. 学会等名 京都府立京都学・歴史館「文書をよむ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 コメント「生存」と「福祉」のはざま - 福祉資源の受益者からみた再構成 -
3. 学会等名 日本史研究会大会近現代史部会共同研究報告
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口寛
2. 発表標題 生政治的統治のグローバルな展開と被差別部落
3. 学会等名 日仏学術交流シンポジウム「人種主義・反人種主義の越境と転換」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関口寛
2. 発表標題 日本近代の人種主義・差別・統治性
3. 学会等名 「差別から見た日本宗教史再考 社寺と王権に見られる聖と賤の論理」研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野口道彦
2. 発表標題 北海道家庭学校の留岡幸助日記の調査報告
3. 学会等名 科研費「マイノリティの包摂/排除をめぐる生政治」研究会、世界人権問題研究センター、2018年12月9日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口寛
2. 発表標題 留岡幸助日記の冊数についての考察
3. 学会等名 科研費「マイノリティの包摂／排除をめぐる生政治」研究会、世界人権問題研究センター、2018年12月9日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関口寛
2. 発表標題 全国水平社創立の思想－社会運動のグローバルな拡散に注目して－
3. 学会等名 第43回社会思想史学会大会 「社会運動のグローバルな拡散に関する思想史的研究」（セッション0）、東京外国語大学、2018年10月28日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 「戦時下銃後奉公会の活動実態に関する覚書 - 京都市正親銃後奉公会を事例に - 」
3. 学会等名 社会福祉形成史研究会、2018年8月4日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 「社会大衆党の政治的基盤 - 研究史の整理と課題 - 」
3. 学会等名 法政大学大原社会問題研究所「無産政党資料研究会」、2018年8月28日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 「戦後初期民団における「民生問題」に関するノート」
3. 学会等名 世界人権問題研究センター「京都における在日コリアン史研究会」、2018年10月19日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 「社会民衆党の社会政策論に関する覚書」
3. 学会等名 法政大学大原社会問題研究所「無産政党資料研究会」、2018年12月21日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 「戦後初期民団における「民生問題」に関するノート」
3. 学会等名 社会福祉形成史研究会、2019年2月11日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉本弘幸
2. 発表標題 「米騒動研究の現段階と課題 - 京都市域の事例を中心に - 」
3. 学会等名 第50回人権交流京都市研究集会第5分科会「変わる米騒動像」、2019年2月23日
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 井岡康時、小林丈広ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都部落問題研究資料センター	5. 総ページ数 198
3. 書名 差別の歴史を考える連続講座講演録 2021年度	

1. 著者名 関口寛ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 298
3. 書名 シリーズ宗教と差別 第2巻	

1. 著者名 関口寛ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 419
3. 書名 人種主義と反人種主義 = Racisme et antiracisme	

1. 著者名 手島一雄、山本崇記、野口道彦ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 545
3. 書名 講座近現代日本の部落問題 3	

1. 著者名 石元清英ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 541
3. 書名 講座近現代日本の部落問題 2	

1. 著者名 小林丈広、井岡康時、廣岡浄進、白石正明、田中和男ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 525
3. 書名 講座近現代日本の部落問題 1	

1. 著者名 関口寛ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 340
3. 書名 シリーズ宗教と差別 第1巻	

1. 著者名 小林丈広ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 奈良県立大学ユーラシア研究センター	5. 総ページ数 220
3. 書名 谷三山、師の師たる人。 : 「谷三山研究会」調査研究レポート 4 (Nara-Eurasia Institute's report ; 2019-2)	

1. 著者名 関口寛ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 428
3. 書名 環太平洋地域の移動と人種	

1. 著者名 石元清英ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 豊中市	5. 総ページ数 123
3. 書名 人権についての市民意識調査報告書	

1. 著者名 井岡康時ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 435
3. 書名 部落解放論の最前線 : 多角的な視点からの展開	

1. 著者名 野口道彦ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 特定非営利活動法人ヒューマンライツゆあさ	5. 総ページ数 -
3. 書名 湯浅町地域高齢者等福祉ニーズ調査報告書	

1. 著者名 石元清英ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 米原市	5. 総ページ数 -
3. 書名 米原市人権意識調査報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	関口 寛 (SEKIGUCHI HIROSHI) (20323909)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	井岡 康時 (IOKA YASUTOKI) (60810926)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	石元 清英 (ISHIMOTO KIYOHIDE) (90212935)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	小林 丈広 (KOBAYASHI TAKEHIRO) (60467397)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	白石 正明 (SHIRAIISHI MASA AKI) (70253573)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉本 弘幸 (SUGIMOTO HIROYUKI) (10625007)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	田中 和男 (TANAKA KAZUO) (80571413)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	手島 一雄 (TESHIMA KAZUO) (60773926)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	廣岡 浄進 (HIROOKA KIYONOBU) (30548350)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・客員研究員 (74331)	
研究分担者	矢野 亮 (YANO RYO) (00755324)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	
研究分担者	山本 崇記 (YAMAMOTO TAKANORI) (80573617)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・その他 (74331)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------